

2022年度
第2回 理事会議事録

2022年 5月 24日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2022年度 第2回理事会議事録

1. 日 時 2022年 5月 24日 (火) 14:55～17:00
2. 場 所 鉄鋼会館 802号会議室
3. 構 成 員 16名
4. 出席構成員 15名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議 事 次 第
 - (1)開会の辞
 - (2)定足数確認報告 (定款第36条)
 - (3)会長挨拶
 - (4)前回理事会議事録の確認
 - (5)議案の審議
 - 1) 第1号議案 2022年度 事業計画<修正案>承認の件
 - 2) 第2号議案 2021年度 事業報告及び決算承認の件
 - 3) 第3号議案 2022年度 正会員会費額承認の件
 - 4) 第4号議案 第55回通常総会招集及び議案確認の件
 - 5) 第5号議案 鉄骨技術審議会委員の新任委員選任について
 - (6)報告事項
 - 1) 2021年度 事業報告および決算に係る監事による監査実施について
 - 2) 退任会長・副会長及び退任理事・監事に対する感謝状、記念品等の贈呈について
 - 3) その他
 - ・総会当日のスケジュール及び開催要領 等
 - ・総会議長等の推薦案について
 - ・構成員企業の2021年度業績等アンケート調査実施案
 - ・指定塗料の価格改定(7～9月)について
 - ・フィットテスト実施者講習会について
 - ・技術アドバイザーの新メンバーについて
 - ・各県組合理事長・副理事長の保有資格の調査実施について
 - ・労務安全書類に関する要望書の提出について
 - (7)その他の事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 主要会議日程
 - 4) 支部報告
 - (8)閉会の辞

6. 議事要旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、理事総数 16 名のうち多和田理事(中部支部)が欠席のため、本理事会の出席理事は 15 名で、定款第 36 条(理事会の定足数)に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事は 3 名全員に出席いただいていることが報告された。

(3) 会長挨拶

米森会長より「新型コロナの感染はなかなか収まらず、本日もその影響で 1 名欠席されており、当分このような状況に対応していかなければならないと思います。この 2 年間、コロナ禍の中にあっても協会の事業を滞らせることなく進めることができたのは、皆様のご努力のおかげであると感謝しています。本日は、6 月の総会に向けた議案をはじめ、報告事項を含めて多くの議題がありますのでご審議のほどよろしく願います。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 議案の審議

1) 第 1 号議案：2022 年度 事業計画<修正案>承認の件

2021 年度第 6 回理事会(2 月 21 日開催)において承認された 2022 年度事業計画の一部事業に項目を追加する案が、議案書[理 22-2-議 1]<p3-4>にそって小貫専務理事より説明された。

本案に対する質問、意見等はなく承認され、6 月 15 日開催予定の第 55 回通常総会への上程案に加えることとした。

2) 第 2 号議案：2021 年度 事業報告及び決算承認の件

「2021 年度事業報告」について、事業の状況、会員の状況、役員・職員の状況、会議開催状況等の重要部分が、議案書[理 22-2-議 2]<p5-24>にそって小貫専務理事より説明された。

引続き、「2021 年度 決算」について、貸借対照表、正味財産増減計算書、予算との差異、公益目的支出計画実施状況が議案書[理 22-2-議 2]<p25-37>にそって小貫専務理事より説明された。

説明の要点は以下のとおり。

○「2021 年度決算」は、2021 年度第 7 回理事会(3 月 15 日開催)で説明した「2021 年度決算見込」と大きな差はなかった。

○貸借対照表

- ・「資産合計額」は、993,660千円で対前年度差+25,399千円増であった。
- ・「普通預金」は、502,617千円で前年度から65,816千円増加したが、これはコロナ禍のために事業規模が縮小し費用が減少した結果である。
- ・「郵便貯金」は、前年度から15,488千円減少し0になっているが、これは昨年度開催予定の講習会の開催が今年度にずれ込んだため、昨年度中に支払いがあった受講料が年度末時点で一時的に郵貯銀行に預けられていたためである。
- ・「退職給与引当資産」が、80,557千円で前年度から17,183千円減少したが、これは2名の退職者に退職金を支払ったことによるものである。
- ・負債の部の「未払金」が20,626千円あるのは、3月末の退職者の退職金の支払時期が4月であったことによるものである。
- ・以上の結果、期末の「負債及び正味財産合計額」は、前年度末比+25,399千円増加して、993,660千円となった。

○正味財産増減計算書

- ・「経常収益」は372,123千円で、対予算▲33,094千円減であった。これは、教育センターからの受託費のうち、センターが直払いする科目（講師謝金、会議室賃借料等）を受託費から除外したためである。
- ・「経常費用」は約333,430千円で、対予算▲71,053千円減であった。これは、教育センターからの受託業務からセンターが直払いする費用（講師謝金、会議室賃借料等）がなくなったこと、また、コロナ禍のために一部の事業の実施の見送りや規模縮小したことなどによるものである。
- ・以上の結果、「当期経常増減額」は、+38,694千円増加[対予算比37,960千円増加]となり、「正味財産期末残高」は、891,673千円となった。

○公益目的支出計画実施状況

- ・公益目的支出計画実施状況に関し、公益目的財産額は、計画実施前の2013年度期首には528.1百万円であったが、前年度(2020年度)末までに383百万円が消化され、さらに2021年度には76.6百万円消化し期末残高は68.1百万円となっている。当初計画では、計画完了は2027年度であったが、相当早まる見込みとなっている。

また、事業報告及び決算書類に関しては、定款25条、43条の規定による監事3名の監査を受け、適正であることが確認されている旨報告された。

上記説明に対する質問、意見等はなく承認され、原案どおり6月15日開催予定の第55回通常総会へ付議することが確認された。

3) 第3号議案：2022年度正会員会費額承認の件

各県のグレード別構成員数と、会費規程に定める正規額から10%減額した単価を前提に計算した各正会員の2022年度年会費額が、議案書[理 22-2-議 3]<p39-40>により提示された。

本案に対する意見、質問等はなく、原案通り承認され、総会承認を経て本金額を各正会員宛てに請求することが確認された。

4) 第4号議案：第55回通常総会招集及び議案確認の件

第55回通常総会の招集に関し、議題、開催日時、場所、審議事項、議決権行使の方法等について、議案書[理 22-2-議 4]<p41-48>にそって、小貫専務理事から説明された。また、議案書が配布され、議案の確認が行われた。

本案に対する意見、質問等はなく、原案通り承認され、総会開催日の14日前にあたる6月1日までに、本招集通知及び議案書を全会員宛てに発送することが確認された。

5) 第5号議案：鉄骨技術審議会委員の新任委員選任について

2021年度第5回理事会(1月14日)において承認された6名の新任委員のうち裏垣・高知大学名誉教授が辞退されたことが報告され、代替委員として田中・神戸大学教授を新委員に選任する案が、議案書[理 22-2-議 5]<p49>により小貫専務理事から説明された。

本案に対する意見等はなく、同名誉教授に委員を委嘱することが承認された。

(6) 報告事項

1) 2021年度事業報告および決算に係る監事による監査実施について

2021年度事業報告及び決算書類に関し、4月28日に村上、野田、高橋3名の監事の監査を受け、「事業報告」、「決算」、「公益目的支出計画」ともに適正であることを確認し、問題指摘はなかったことが議案書[理 22-2-報 1]<p51-52>にそって村上監事より報告された。

2) 退任会長・副会長及び退任理事・監事に対する感謝状、記念品等の贈呈について

6月15日開催予定の第55回通常総会の終結をもって退任される役員に対して、表彰規程その他関連規則にしたがって感謝状及び記念品を授与する旨 小貫専務理事より報告され了承された。

3) その他

①総会当日のスケジュール及び開催要領 等

通常総会が開催される6月15日の全体スケジュール、出席予定者が議案書[理 22-2-報 3①]<p53-54>により小貫専務理事より説明された。

②総会議長等の推薦案について

6月15日に開催予定の第55回通常総会の議長、議事録署名人の選任に関し、以下の推薦案が小貫専務理事より提案され、了承された。

議長： 出雲理事

議事録署名人： 多和田理事、井原理事

③構成員企業の2021年度業績等アンケート調査実施案

毎年実施している構成員企業の業績等調査に関し、小貫専務理事より以下の説明がなされ、具体的設問が議案書[理 22-2-報 3③]<p57-61>により示され、了承された。

・本調査は、3月期決算の構成員が多いことをふまえ、時宜を得た集計と結果報告を行うため7月の実施を予定しているため、改選後の新運営委員会ではなく、現運営委員会で実施要領案と設問内容案を確認していただいた。

・昨年度は、事業継承に関する質問を設けたが、今年度は定例の質問のみとする。

④指定塗料の価格改定(7～9月)について

共済事業の指定塗料の協力販売価格に関し、原油及びナフサ価格の高騰が続いていることから、2022年7月～9月の価格を改定したい旨 大日本塗料(株)から要望されていることが議案書[理 22-2-報 3④]<p63-65>により示され、原油価格の急激な高騰を鑑みれば要望の受け入れはやむを得ないと判断されるため、本要望を受け入れることとし、その旨会員に通知することが報告され、了承された。

⑤フィットテスト実施者講習会について

中央労働災害防止協会が主催するフィットテスト実施者講習会の開催予定表が議案書[理 22-2-報 3⑤]<p67>により示された。定員数が少なく、また、日程が迫っているものもあるため、受講を希望する構成員は時機を逸することがないよう、早急に申し込むよう各県組合を通じて通知することとした。

⑥技術アドバイザーの新メンバーについて

技術アドバイザーのメンバーであった牧哲生氏<榎角藤>の退職にともない、その後任として、西澤淳氏を新メンバーとする案が、議案書[理 22-2-報 3⑥]<p68>により報告され、了承された。

⑦各県組合理事長・副理事長の保有資格の調査実施について

今後実施する事業において委員会、WG等を設置する際などに、メンバー選定の重要な参考情報とするため、各県組合理事長・副理事長が保有する鉄骨関係の資格について調査する予定であり、各組合の協力をお願いする旨 また、本情報の取扱いは会長及び専務理事限りとし、上記目的以外には使用しないことが小貫専務理事より口頭で説明された。

⑧労務安全書類に関する要望書の提出について

現場作業員が建設現場へ入場する際に提出が求められている労務安全書類に関し、書式の不統一、関連サービス業務などのため、非効率で過大な負担を強い

られていることをふまえ、国土交通大臣及び(一社)日本建設業連合会に対する改善要望書を、関連業界団体連名で提出する予定であり、当協会にも賛同を求める旨(一社)CIW検査業協会当協会より要請があったことが、新村技術部長より追加資料により報告された。

米森会長より、本要請に応じて当協会も賛同することとしたい旨説明された。

(7)その他の事項

1) 構成員登録状況

2022年5月24日時点の構成員数は、2,196社で、前回報告時(4月25日)より2社増加したこと等が、議案書[理22-2-他1](p70-74)に基づき小貫専務理事より報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2022年3月の鉄骨推計需要は35.6万トン(前年同月比6.1%減)であり、2021年度累計は約465.6万トン(前年度比13.1%増)と、2019、2020年度を上回ったことが、議案書[理22-2-他2](p75)により事務局から報告された。

3) 主要会議日程

主要会議日程に関し、以下の点が小貫専務理事より補足説明があった。

- ・6月15日開催の理事会及び総会にはノーネクタイで参加いただきたい。
- ・7月12日の理事会の翌日(13日)は、国際ウェルディングショーの初日で、10時から開会式が行われるので、理事の皆さん全員に出席いただきたい。

4) 支部報告

[北海道]

- ・道央支部その他で、役員会、支部総会を開催した。
- ・4月27日に北海道支部役員会を開催した。
- ・手持工事量は、S・Hグレードファブが5~9ヶ月、Mが2~5ヶ月、R・Jが1~3ヶ月。
- ・稼働率は、概ね75~100%。
- ・見積物件数は、「少ない」が多くなっている。
- ・鋼材価格の上昇と納期の長期化には相変わらず苦慮している。
- ・S造からRC造への変更が目立っており、特に札幌オリンピックと新幹線延伸を背景に増加しているホテル建設でこの傾向が顕著である。

[東北]

- ・4月13日に東北鉄構工業連合会役員会を開催した。総会を6月2日に開催する予定である。
- ・手持工事量は、Hが6~12ヶ月、Mが2~12ヶ月、R・Jが1~5ヶ月。
- ・稼働率は、概ね70~100%。
- ・見積物件数は、青森、福島以外は「少ない」。
- ・鋼材価格高騰にともない加工費への圧迫が強まっている。
- ・鋼材以外の資材の価格高騰もあり、見積提出時期と発注時期が離れると再見積

が必要になることが多くなるが、再見積が認められないケースもあり苦しんでいる。

- ・電力供給会社に関し、新電力会社への依存度が高まる中で、経営難から事業撤退・倒産する会社も現れており、供給源をもとの既存大手電力会社に戻そうとしても、断られたり、倍額の料金を求められる例が出現しており困惑している。

〔関東〕

- ・4月12日に支部運営委員会を、4月15日に事務局長会議を、また5月12日に支部会を開催し新支部長が正式に決まった。その後、新支部長への引継ぎも完了した。
- ・手持工事量、稼働率は資料記載のとおりで、バラツキが大きい。
- ・見積物件数は、一部の県で増加傾向がみられ一方で、中小物件の延期や中止の報告も聞かれる。
- ・価格は材料費の上昇に追いついていない。また、契約時期と鋼材の発注時期のズレで見積額どおりの鋼材手配ができない場合があり、見積提出のタイミングが難しい。
- ・電力に関して、切迫感はないが東北支部と同様の報告を聞いている。

〔北陸〕

- ・4月22日に支部会を開催した。
- ・手持工事量は、Hが6～12ヶ月、Mが2,3～6ヶ月、R・Jが3ヶ月。
- ・稼働率は、概ね70～100%だが100%を超える例もある。
- ・見積物件数は少なくはないが、同じ物件がVE条件を変更して複数回現れるなど、見かけ件数が増えているに過ぎない、との見方もある。
- ・価格は材料費の上昇に追いついておらず、加工費が圧迫されている。
- ・鋼材納期の長期化への理解は進んでいるようで、予算化の前倒しまでして発注時期を早めて対応している公共物件もある。
- ・電力に関して、ファブ以外の業界で東北支部と同様の報告を聞いている。

〔近畿〕

- ・支部内各県とも対面形式を前提にした総会開催に向け、役員会開催など諸々の準備を進めている。
- ・次回支部会は6月10日に開催予定で、主要議題は鋼材問題と人材問題になる予定。
- ・手持工事量は、Hでは1年を超えるものもいるが、実際に契約しているのは10ヶ月程度ではないかと思われる。Mは2,3～6ヶ月、R・Jは1～3,4ヶ月。
- ・稼働率は、報告者により定義が統一されていないが、概ね70～100%程度。
- ・見積物件数は、普通程度で大きな変化はない。
- ・価格は伸び悩みであるが、一時期みられた安値はみられなくなった。

〔中国〕

- ・支部会を4月13日に、米森会長等にも出席いただいて開催した。
- ・次回支部会は6月1日に開催予定。
- ・各県組合では、5月の総会開催に向けて準備を進めている。
- ・手持工事量は、Hは1年程度持っているものもいる。Mは2～10ヶ月と大きなバラツキがある。R・Jは1～3,4ヶ月。

- ・稼働率も概ね 70～100%であるが、ファブにより、また月により 20%程度の場合もある。
- ・見積物件数は「少ない」。
- ・価格は材料費の上昇に追いついておらず、加工費が圧迫されている。
- ・電力に関して、東北支部のような報告は聞いていない。

〔四国〕

- ・各県の役員会は開催しているが、支部としての活動はこの1ヶ月行っていない。
- ・仕事量は少なく、Hファブの半数以上は近畿など他地区の物件に依存している。
- ・M・R・Jはさらに厳しい状況で、Hの下請けで凌いでいる。
- ・秋以降は、学校、物流施設等大型物件の計画があり期待しているが、材料調達がネックにならないか気掛かりである。

〔九州〕

- ・支部としての活動はこの1ヶ月行っていない。次回支部会は6月9日に開催する予定である。
- ・現在の支部の懸案事項は、フィットテストへの対応、3支部合同支部会、九州支部技術委員会の立ち上げ、インボイス制度への対応 である。
- ・手持工事量は、Hが6～12ヶ月、Mが3～6ヶ月、R・Jが1～2ヶ月程度であるが、沖縄の状況はこれより厳しい内容である。
- ・稼働率、見積物件数とも、先月からの大きな変化はない。
- ・量的には一定程度の需要があるが、大型物件に偏っており、中小物件数が少ないためMグレード以下のファブが苦戦し、県によっては商社介在物件が増える結果になっている。
- ・鋼材納期の長期化と、ゼネコンの設計遅れが相互に影響して負のスパイラルに陥っている感がある。
- ・超短期、大型物件が動き始めた影響で、重機・労務の調達にひっ迫感が現れており、今後の顕著化が危惧される。

(8) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項、その他の定例報告事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

<u>役 職</u>	<u>氏 名</u>
会 長	米 森 昭 夫
副 会 長	永 井 毅
〃	大 島 嗣 雄
〃	山 本 泰 徳
専務理事	小 貫 武
常務理事	大 橋 利 勝
理 事	佐 藤 正 記
〃	渡 辺 勝
〃	大 竹 良 明
〃	寺 田 健 信
〃	出 雲 津 芳 章
〃	福 田 秀 章
〃	井 原 常 裕
〃	岩 永 洋 尚
〃	辰 巳 功
監 事	村 上 眞 樹
〃	野 田 博 文
〃	高 橋 伸 和

理事総数 16名 うち出席者 15名 [欠席：多和田理事]
監事総数 3名 うち出席者 3名